

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第6回臨時総会議事録

I. 日 時 令和 元年 9月 2日 (月) 13時00分から

II. 場 所 医療系大学間共用試験実施評価機構会議室

III. 出席者 会 員 山下英俊ほか105名 (内訳別紙出席者名簿のとおり)
理事長 栗原 敏 (議事録作成者)
理 事 江藤一洋, 齋藤宣彦, 北村 聖, 高久史麿, 高木 康
河野文昭, 石田達樹, 上野 滋, 吉岡俊正, 齋藤隆史
仁田善雄, 堀 裕, 山口育子, 別所正美, 羽鳥 裕
監 事 菊池俊昭, 鈴木裕子

IV. 議 題

1. 審議事項

(1) 第1号議案 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の受験料について

(2) 配付資料

資料番号なし 第6回定時総会議事録 (案)

資料1 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の受験料について

資料2 「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (診療参加型臨床実習後OSCE)」の正式実施と受験料について (受験生用)

V. 議事の経過の要領及び結果

松尾総務部長から正会員111名のうち、出席者20名、委任状を提出した者65名 (うち理事長に委任した者32名、議長に委任した者11名、代理人に委任した者22名)、議決権を行使した者21名 (うち賛成10名、反対9名、棄権2名)、となり、合計106名が出席し、定款第19条第1項の規定による総会の定足数を満たしている旨の報告があった。

次に、議長として前田健康 (新潟大学歯学部長) が選出された。

続いて、前田議長から第6回定時総会議事録 (令和元年6月18日 (火) 開催) の確認について附議、審議の結果、全員異議なく、原案どおり確認された。

引き続き、前田議長から議事録署名人2名の選出について附議、審議の結果、松藤千弥 (東京慈恵会医科大学長) 及び藤井一維 (日本歯科大学新潟生命歯学部長) が選出された。

1. 審議事項

(1) 第1号議案 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の受験料について

前田議長から本件について附議、江藤副理事長から資料1「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の受験料について」及び資料2「「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（診療参加型臨床実習後OSCE）」の正式実施と受験料について（受験生用）」に基づき説明があった後、島谷事務局長から受験料積算根拠等について補足説明があった。

藤井日本歯科大学新潟生命歯学部長から受験料の説明については理解できるが、令和2年度からの正式実施については、既に決定事項なのか、また、歯学系においては、正式実施が決議されていないことから、各大学の学内の規則等の変更ができず、さらに進級基準を変更するのに時間を要することから正式実施を躊躇している旨の質疑があった。

栗原理事長から決議は取っていないが、医学系及び歯学系会員を対象とした説明会において特に異議はなく、次回総会で準備が整い実施可能な大学から実施する方向で諮る予定である。

大学の事情によって学内規則を統一的に変更することは困難であるので、実施可能大学から開始することで、合意を得ていると考えている。歯学系で令和2年度からの正式実施が困難であれば、学内規則整備完了後に正式実施することも可能である旨の回答があった。

続いて、齊藤東京大学医学部長から医学系としては、令和2年度正式実施を目指しつつ、大学の事情も考慮し、開始すると理解しているが、本日の議案は受験料についてということであり、説明会においても、受験料が高い、学生へのクレジット等について意見があり、システム開発が完了する5年後の見直しに向け、コストダウンを図り、学生が負担する受験料へフィードバックしてもらいたい。さらに、この試験が国家試験の代わりに活用されるとしたら、厚生労働省への働きかけも必要であり、全国医学部長病院長会議と医療系大学間共用試験実施評価機構が連携して行くことが重要である旨の要請があった。

栗原理事長から5年間で内容をブラッシュアップしていき、見直すことによって受験料を低減化し、フレキシブルに対応できるように今後、システムを開発していく旨の回答があった。

続いて、松藤東京慈恵会医科大学長から一斉に正式実施に至らなかった場合、

収支のバランスが受験料の予算積算と合わなくなるが、その場合の取扱いについて確認したい旨の質疑があり、島谷事務局長から受験料の積算に当たっては、全ての大学が実施する条件で積算している。一斉に正式実施できない状況で予算積算額より減収になり、想定した収入が得られなくなった場合は、機構が保有している公益目的事業費で対応する旨の回答があった。

続いて、藤井日本歯科大学新潟生命歯学部長からシステムの開発のクラウドシステムは診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験だけなのか、サーバー、システム全体をクラウド化させているのか、クラウドシステムが5年で125,000,000円、それに対するサーバー保守料とシステム保守の区分の相違について、さらにシステム開発の中で歯学系に関連する二つのシステムがあるが、それ以外のシステムの歯学系関連の有無について質疑があり、石田事業部長からクラウドシステムは基本的には診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験に係るもので、機構にサーバーを設置することが不可能なことから、クラウド化する前提で考えている旨、引き続き島谷事務局長からシステム開発上の保守料は新規開発するシステム保守、サーバ関連保守料はサーバに付随するソフトウェアの保守及び歯学系に特化しているのは二つのシステム、それ以外については医学系、歯学系共通のシステムである旨の回答がそれぞれあった。

続いて、櫻井神奈川歯科大学長からシステム開発が完了していない段階での正式実施の可否について質疑があり、島谷事務局長から現時点でのシステム開発ペースは少し遅延気味であるが進んでいる。仮に間に合わない場合は、その間はシステム化されない状態で動いていく旨の回答があった。

続いて、小西京都大学医学部長代理人から毎年のシステム開発経費に1億円を要するが、その必要性、評価者の養成支援・認定システム経費まで受験料で賄う意味等について質疑があり、栗原理事長から大学の負担が多いことは、機構でも理解している。国への経費負担等を訴える等の方法もあるが、我々がまず自助努力しているところを十分理解してもらって、その上で文部科学省、厚生労働省の意見を伺いながら今後も努力していきたい旨の回答があった。

続いて、江尻朝日大学歯学部長から5年計画でこのシステムを開発するという事で予算積算しているが、5年目以降のシステム開発費の軽減について質疑があり、島谷事務局長からクラウドシステムについては、5から6年のリース契約であり、リース契約終了後に新規契約が開始される。5年目以降のシステム開発は軽減されるが、システムの改修費や保守料が新規に発生してくる旨の回答があった。

以上審議の結果，全員異議なく，診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の受験料は，医学系20,000円，歯学系30,000円で原案どおり承認された。

また，一戸東京歯科大学長代理人から歯学系の診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の呼称をPcc-OSCEではなく，歯学系の教育及び臨床実習の特色を活かした評価法であることから，呼称を検討してほしい旨の要請があった。

最後に栗原理事長から受験料については，5年を目途に見直し，令和2年3月開催予定の総会において，診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験の実施について，諮り，準備が整い，実施可能な大学から実施したい旨説明があった。

以上をもって議事は全て終了し，議長は，14時05分閉会を宣し，解散した。

令和 元年 9月 2日

議 長 前 田 健 康 ⑩

議事録署名人 松 藤 千 弥 ⑩

議事録署名人 藤 井 一 維 ⑩

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第6回臨時総会出席者名簿名簿

出席者（20名）

山形大学医学部長	山下 英俊
東京大学医学部長	齊藤 延人
東京医科歯科大学医学部長	北川 昌伸
岩手医科大学医学部長	佐々木 真理
埼玉医科大学医学部長	村越 隆之
杏林大学医学部長	渡邊 卓
帝京大学医学部長	川村 雅文
東京慈恵会医科大学長	松藤 千弥
大阪医科大学長	大槻 勝紀
防衛医科大学校長	長谷 和生
新潟大学歯学部長	前田 健康
岡山大学歯学部長	浅海 淳一
広島大学歯学部長	加藤 功一
九州歯科大学長	西原 達次
明海大学歯学部長	草間 薫
日本歯科大学生命歯学部長	沼部 幸博
日本歯科大学新潟生命歯学部長	藤井 一維
神奈川歯科大学長	櫻井 孝
朝日大学歯学部長	江尻 貞一
奥羽大学歯学部長	大野 敬

理事長に委任した者（32名）

旭川医科大学長	吉田 晃敏
秋田大学医学部長	尾野 恭一
千葉大学医学部長	中山 俊憲
金沢大学医薬保健学域医学類長	和田 隆志
山梨大学医学部長	中尾 篤人
浜松医科大学長	今野 弘之
大阪大学医学部長	森井 英一
神戸大学医学部長	藤澤 正人
広島大学医学部長	秀道 広
高知大学医学部長	菅沼 成文
九州大学医学部長	北園 孝成

佐賀大学医学部長	原 英 夫
長崎大学医学部長	永 安 武
鹿児島大学医学部長	河 野 嘉 文
横浜市立大学医学部長	益 田 宗 孝
名古屋市立大学医学部長	道 川 誠
大阪市立大学医学部長	大 畑 建 治
和歌山県立医科大学医学部長	村 垣 泰 光
自治医科大学長	永 井 良 三
北里大学医学部長	浅 利 靖
順天堂大学医学部長	服 部 信 孝
昭和大学医学部長	小 川 良 雄
東京医科大学長	林 由起子
日本医科大学長	弦 間 昭 彦
愛知医科大学医学部長	若 槻 明 彦
藤田医科大学医学部長	岩 田 仲 生
関西医科大学長	友 田 幸 一
兵庫医科大学長	野 口 光 一
福岡大学医学部長	朔 啓二郎
大阪大学歯学部長	今 里 聡
鹿児島大学歯学部長	宮 脇 正 一
昭和大学歯学部長	榎 宏太郎

議長に委任した者（11名）

信州大学医学部長	中 山 淳
岐阜大学医学部長	岩 間 亨
滋賀医科大学長	塩 田 浩 平
愛媛大学医学部長	山 下 政 克
宮崎大学医学部長	片 岡 寛 章
福島県立医科大学医学部長	竹 石 泰 知
慶應義塾大学医学部長	天 谷 雅 行
東海大学医学部長	坂 部 貢
聖マリアンナ医科大学長	尾 崎 承 一
金沢医科大学医学部長	川 原 範 夫
東北大学歯学部長	佐々木 啓 一

代理人に委任した者（22名）

東北大学医学部長	八重樫 伸 生	大和田 祐 二
新潟大学医学部長	染 矢 俊 幸	鈴 木 利 哉
京都大学医学部長	岩 井 一 宏	小 西 靖 彦
山口大学医学部長	谷 澤 幸 生	山 下 英 俊
京都府立医科大学長	竹 中 洋	田 中 秀 央
獨協医科大学長	吉田 謙一郎	楫 靖
東京女子医科大学医学部長	唐 澤 久美子	三 谷 昌 平
東邦大学医学部長	渡 邊 善 則	並 木 温
日本大学医学部長	高 山 忠 利	木 下 浩 作
東京医科歯科大学歯学部長	渡 部 徹 郎	興 地 隆 史
徳島大学歯学部長	宮 本 洋 二	河 野 文 昭
九州大学歯学部長	中 村 誠 司	築 山 能 大
岩手医科大学歯学部長	三 浦 廣 行	佐 藤 和 朗
東京歯科大学長	井 出 吉 信	一 戸 達 也
日本大学歯学部長	本 田 和 也	米 原 啓 之
鶴見大学歯学部長	大久保 力 廣	小 川 匠
松本歯科大学歯学部長	宇田川 信 之	一 戸 達 也
愛知学院大学歯学部長	栗 田 賢 一	藤 井 一 維
大阪歯科大学長	川 添 堯 彬	山 本 一 世
福岡歯科大学長	高 橋 裕	稻 井 哲 一 朗
東北医科薬科大学医学部長	福 田 寛	中 村 豊
国際医療福祉大学医学部長	河 上 裕	潮 見 隆 之

議決権を行使した者（21名）

北海道大学医学部長	吉 岡 充 弘
筑波大学医学群長	梶 正 幸
群馬大学医学部長	石 崎 泰 樹
富山大学医学部長	足 立 雄 一
福井大学医学部長	内 木 宏 延
名古屋大学医学部長	門 松 健 治
鳥取大学医学部長	黒 沢 洋 一
島根大学医学部長	並 河 徹
徳島大学医学部長	赤 池 雅 史
香川大学医学部長	上 田 夏 生
熊本大学医学部長	富 澤 一 仁
大分大学医学部長	守 山 正 胤
琉球大学医学部長	石 田 肇

札幌医科大学医学部長
奈良県立医科大学長
久留米大学医学部長
産業医科大学医学部長
北海道大学歯学部長
長崎大学歯学部長
北海道医療大学歯学部長
日本大学松戸歯学部長

三 浦 哲 嗣
細 井 裕 司
矢 野 博 久
金 澤 保
八 若 保 孝
村 田 比呂司
古 市 保 志
渋 谷 鑛